

J R 四 国 労 組 ニ ュ ー ス

令和4年11月25日（No.14） 発行責任者／大谷 清 編集責任者／石川 敏也

第18回「四国の鉄道を考える国会議員連絡会」 3年ぶりの開催！JR四国の現状と課題について意見交換！



労使双方の意見に真剣に耳を傾ける「四国の鉄道を考える国会議員連絡会」役員

J R 四 国 労 組 は、1 1 月 1 7 日（木）に衆議院第一議員会館内会議室において、第18回「四国の鉄道を考える国会議員連絡会」を開催した。3年ぶりの開催となった本連絡会には、小川淳也議員、玉木雄一郎議員、仁木博文議員をはじめ、J R 四 国 から西牧世博代表取締役社長、四之宮和幸代表取締役専務総合企画本部長、J R 連 合 から政所大祐事務局長、森安祐貴産業政策局長、J R 四 国 労 組 より大谷執行委員長ら総勢15名が出席した。

冒頭、事務局長に玉木雄一郎議員を、会長に小川淳也議員を選出。小川会長から「コロナ禍の痛みもあるが、J R 四 国 の課題は構造問題に起因しており、抜本的対策の必要性は理解している。労使双方の取り組みをお預かりし、力を合わせて取り組んでいく」と挨拶を受けた後、J R 四 国 労 組 大 谷 執 行 委 員 長 が「コロナ禍でJ R 産 業 は 大 き な 打 撃 を 受 け た。現 在 は コ ロ ナ 前 の 7 割 に 満 た な い も の の 回 復 の 動 き を 見 せ て お り、明 る い 光 が 見 え て き た。再 度 の 感 染 者 数 拡 大 の 影 響 も 危 惧 す る が、今 後 も 四 国 の 公 共 交 通 を 守 る た め、労 使 と も に 安 全 第 一 で 取 り 組 ん で い く。政 策 課 題 の 解 決 に 向 け て、ぜ ひ 先 生 方 の お 力 添 え を お 願 い し た い」と述べ、J R 連 合 政 所 事 務 局 長 が「コロナ禍で構造的な課題が顕著に表れている。民の力だけでは成り立たない部分についてメスを入れていく必要があり、先生方のお力添えをお願いしたい」と続いた。J R 四 国 西 牧 社 長 か ら は「第 2 四 半 期 決 算 は 単 体 で は 赤 字、連 結 で は 黒 字 を 確 保 し た。全 国 旅 行 支 援 の 開 始 等 も あ っ て 収 入 も 底 を 打 っ た と 感 じ て い る が、ホ テ ル は 好 調 で も 鉄 道 と バ ス は 回 復 の 勢 い が 弱 い。第 8 波 が 到 来 し な く と も、物 価 高 騰 の 影 響 も あ り、事 業 計 画 の 達 成 は 厳 し い 状 況 に あ る。掲 げ た 長 期 ビ ジ ョ ン は コ ロ ナ 禍 の 影 響 を 加 味 し て い な い も の だ が、申 請 中 の 運 賃 改 定 の 実 施 や 講 じ ら れ て い る 支 援 を 活 用 し、経 営 自 立 に 向 け て 取 り 組 ん で い く」と挨拶した。

その後、J R 連 合 の 取 り 組 み、J R 四 国 の 現 況 と 経 営 課 題 に つ い て 説 明 が な さ れ た の ち、「コ ロ ナ 禍 の 影 響」「運 賃 改 定」「収 支 が 極 端 に 悪 化 し て い る 線 区 に 係 る 国 や 自 治 体 と の 協 議」「通 学 に ま つ わ る 課 題」「非 鉄 道 事 業 の 展 望」に 関 し て 意 見 交 換 を 行 っ た。

第18回J R 四 国 労 組「四国の鉄道を考える国会議員連絡会」役員

役職	氏名等
会長	小川 淳也（衆議院 香川1区）
事務局長	玉木 雄一郎（衆議院 香川2区）
幹事	仁木 博文（衆議院 徳島1区）
幹事	白石 洋一（衆議院 愛媛3区）
幹事	永江 孝子（参議院 愛媛）